



IP テレフォニー プロトコルの概要

IP テレフォニー プロトコルの概要では、さまざまなプロトコルについて、およびプロトコルと Cisco Unified Communications Manager の相互対話について簡単に説明します。

この章の構成は、次のとおりです。

- 「IP プロトコル」 (P.39-1)
- 「アナログ テレフォニー プロトコル」 (P.39-3)
- 「デジタル テレフォニー プロトコル」 (P.39-6)
- 「参考情報」 (P.39-18)

IP プロトコル

Cisco Unified Communications Manager は、PSTN ゲートウェイ インフラストラクチャ内で、番号分析、ルーティング、回線選択などのシグナリング タスクとコール制御タスクを実行します。これらの機能を実行するため、Cisco Unified Communications Manager は、H.323、MGCP、SCCP、SIP など、業界標準の IP プロトコルを使用します。Cisco Unified Communications Manager とこれらのプロトコルを使用すると、サービス プロバイダーは、PSTN とパケット ネットワーク間で音声コールとデータコールをシームレスにルーティングできるようになります。

ここでは、次の IP プロトコルについて説明します。

- 「H.323 プロトコル」 (P.39-1)
- 「メディア ゲートウェイ コントロール プロトコル (MGCP)」 (P.39-2)
- 「Skinny Client Control Protocol (SCCP)」 (P.39-3)
- 「セッション開始プロトコル (SIP)」 (P.39-3)

H.323 プロトコル

International Telecommunications Union (ITU; 国際電気通信連合) は、パケット ネットワーク上のマルチメディア通信用に H.323 標準を開発しました。その結果、H.323 プロトコルは折り紙付きの ITU 標準となり、マルチベンダーの相互運用性をもたらしました。H.323 プロトコルにより、基となるパケット ネットワーク上のマルチメディア アプリケーション サービス、シグナリング、およびセッション制御のあらゆる性質が決まります。オーディオは H.323 ネットワーク上の標準ですが、ネットワークを拡張することでビデオとデータの両方を含めることもできます。H.323 プロトコルは、大規模エンタープライズ ネットワークに実装することも、既存のインフラストラクチャ上に配置することもできます。結果として、H.323 は価格的に手頃なソリューションとなりました。

H.323 プロトコルの基本コンポーネントは、端末、ゲートウェイ、およびゲートキーパーです（これで H.323 エンドポイントへのコール制御が可能です）。他のプロトコルと同様、H.323 もポイントツーポイントセッションやマルチポイントセッションに適用されます。ただし、MGCP と比較すると、H.323 の方が、ゲートウェイでの設定が増えます。

詳細については、次のトピックを参照してください。

- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加」の項
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ゲートキーパーの設定」の章
- 「Cisco Unified Communications Manager トランク タイプの概要」
- 「Cisco Unified Communications Manager 音声ゲートウェイの概要」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランクの設定」の章

メディア ゲートウェイ コントロール プロトコル (MGCP)

MGCP を使用すると、Cisco Unified Communications Manager でコール制御を行うときに、強力で柔軟性のある拡張可能なリソースを使用できます。Cisco Unified Communications Manager は、MGCP を使用することで、リモートゲートウェイのテレフォニー インターフェイス上でメディアを制御したり、リモートゲートウェイから適切なデバイスにメッセージを配信したりします。

MGCP を使用すると、マルチサービス IP パケット ネットワークの端部にある音声とデータの通信デバイスを、コール エージェント（メディア ゲートウェイ コントローラ）でリモートから制御および管理できます。MGCP のアーキテクチャは集中型になっているため、音声ゲートウェイの設定と管理が簡単になり、ネットワーク内で複数の（冗長の）コール エージェントがサポートされます。MGCP には、メッセージ暗号化や認証などのセキュリティ メカニズムは用意されていません。

MGCP を使用することで、Cisco Unified Communications Manager は、コール処理とルーティングを制御し、ゲートウェイに補助サービスを提供します。MGCP は、コール プリザベーション（フェールオーバーとフォールバック時にゲートウェイ上にコールが保持される）、冗長性、ダイヤル プランの単純化（ゲートウェイ上でダイヤルピア設定が必要ない）、フックフラッシュ転送、および保留音を提供します。MGCP によって制御されるゲートウェイでは、メディア ターミネーション ポイント（MTP）が、保留、転送、コール ピックアップ、コール パークなどの補助サービスを使用可能にする必要がありません。MGCP ゲートウェイは Cisco Unified Communications Manager と通信できなくなった場合には、H.323 制御の使用へとフォールバックして、FXS、FXO、T1 CAS、および T1/E1 PRI インターフェイスの基本コール処理をサポートします。

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加」を参照してください。

関連項目

- 「H.323 プロトコル」(P.39-1)
- 「Skinny Client Control Protocol (SCCP)」(P.39-3)
- 「セッション開始プロトコル (SIP)」(P.39-3)

Skinny Client Control Protocol (SCCP)

SCCP は、IP デバイスと Cisco Unified Communications Manager 間で、シスコ独自のメッセージを使用して通信します。複数プロトコル環境でも SCCP は簡単に共存できます。Cisco Unified IP Phone は、Cisco Unified Communications Manager に SCCP クライアントとして登録、通信するデバイスの例です。登録時、Cisco Unified IP Phone は Cisco Unified Communications Manager から回線などの設定すべてを受信します。登録が完了すると、新しい着信コールが通知され、コールを発信できるようになります。SCCP は、Message Waiting Indication (MWI; メッセージ受信のインジケータ) などの VoIP コール シグナリングおよび拡張機能に使用されます。

Cisco VG248 ゲートウェイは、Cisco Unified Communications Manager に SCCP クライアントとして登録、通信するデバイスの別の例です。Cisco VG248 ゲートウェイの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加」を参照してください。

関連項目

- 「H.323 プロトコル」(P.39-1)
- 「メディア ゲートウェイ コントロール プロトコル (MGCP)」(P.39-2)
- 「セッション開始プロトコル (SIP)」(P.39-3)

セッション開始プロトコル (SIP)

Internet Engineering Task Force (IETF; インターネット技術特別調査委員会) は、IP を介したマルチメディア コール向けに SIP 標準を開発しました。ASCII ベースの SIP は、クライアント/サーバ関係やピアツーピア関係で動作します。SIP は、複数のエンドポイント間で、要求と応答を使用してコール (またはセッション) を確立、維持、および終了します。SIP の詳細や SIP と Cisco Unified Communications Manager 間の相互対話の詳細については、「セッション開始プロトコルの概要」の章を参照してください。

関連項目

- 「H.323 プロトコル」(P.39-1)
- 「メディア ゲートウェイ コントロール プロトコル (MGCP)」(P.39-2)
- 「Skinny Client Control Protocol (SCCP)」(P.39-3)

アナログ テレフォニー プロトコル

最初のシグナリング プロトコルであるアナログ テレフォニー シグナリングは、アナログ トランク上でコールを接続または切断する手段を備えています。各アナログ トランクは、2 線式または 4 線式の回線上で直流 (DC) を使用してオンフックとオフフックの状態を信号で伝えることで、PBX やアナログ電話機などのアナログ エンドポイントまたはデバイスを接続します。

従来のアナログ セントラル オフィスと PBX に接続できるようにするため、Cisco Unified Communications Manager は、音声ゲートウェイをアナログ エンドポイントおよびデバイスに接続するアナログ トランク上で、アナログ シグナリング プロトコルを使用します。Cisco Unified Communications Manager がサポートするアナログ トランク インターフェイスのタイプは次のとおりです。

- Foreign Exchange Office (FXO) : ゲートウェイを central office (CO; セントラル オフィス) または private branch exchange (PBX; 構内交換機) に接続するアナログ トランク

- Foreign Exchange Station (FXS) : アナログ電話機、FAX マシン、および従来のボイス メッセージ システムなどの plain old telephone service (POTS; 一般電話サービス) デバイスにゲートウェイを接続するアナログ トランク

選択されたゲートウェイのモデルに応じて、FXO および FXS トランク インターフェイス用のループ スタート、グラウンド スタート、および E&M シグナリング プロトコルを設定できます。コールの正しい接続を保証するには、トランク インターフェイスの両端で同じタイプのシグナリングを使用する必要があります。次の項では、Cisco Unified Communications Manager がサポートするアナログ シグナリング プロトコルのタイプについて説明します。

- 「ループ スタート シグナリング」 (P.39-4)
- 「グラウンド スタート シグナリング」 (P.39-4)
- 「E&M シグナリング」 (P.39-5)
- 「チャンネル連携信号 (CAS)」 (P.39-5)

ループ スタート シグナリング

ループ スタート シグナリングは、コールを開始するオフフック信号と、ループを開いてコールを終了するオンフック信号を送信します。ループ スタート トランクには確実な接続解除監視がないため、2つのコールが同時にトランクを捕捉するときにグレアが発生する可能性があります。

関連項目

- 「グラウンド スタート シグナリング」 (P.39-4)
- 「E&M シグナリング」 (P.39-5)
- 「チャンネル連携信号 (CAS)」 (P.39-5)

グラウンド スタート シグナリング

グラウンド スタート シグナリングには、トランクの両端でオフフック信号を検出する電流検出メカニズムがあります。このメカニズムでは、トランクを捕捉する側をエンドポイントが取り決めてからトランクを捕捉するようになるため、グレアが発生する可能性は最小限に抑えられます。グラウンド スタートは、接続および接続解除を確実に認識できるため、PBX 接続に最適なシグナリング方式です。PBX にはグラウンド スタート シグナリングをサポートしていないものがあるため、そのような場合、トランク インターフェイスにはループ スタート シグナリングを使用する必要があります。

関連項目

- 「ループ スタート シグナリング」 (P.39-4)
- 「E&M シグナリング」 (P.39-5)
- 「チャンネル連携信号 (CAS)」 (P.39-5)

E&M シグナリング

E&M シグナリングは、コールが `recEive` または `transMit` (E&M) 状態になると、2 線式または 4 線式の回線上で直流 (DC) を使用して、エンドポイントまたは CO スイッチに信号を伝えます。E&M シグナリングが使用する信号は、オフフックとオンフックの状態を示します。接続が確立すると、オーディオ伝送が行われます。トランク インターフェイスの両端で E&M シグナリングのタイプが一致している必要があります。正常な接続のために、Cisco Unified Communications Manager は、次のタイプの E&M シグナリングをサポートします。

ウィンク スタート シグナリング：発信側が、オフフック信号を送信した後、コールのダイヤル番号を受信する準備ができたことを示す受信側からのウィンク パルス信号を受信するために待機する。ウィンク スタートは応答監視を備えているため、最適なシグナリング方式です。CO と PBX には、ウィンク スタート シグナリングをサポートしていないものがあります。

遅延ダイヤル シグナリング：発信側が、オフフック信号を送信してから、設定可能な期間待機した後、受信側がオンフックになっているかどうかをチェックする。受信側がオンフックになっていれば、発信側はダイヤル番号を送信します。遅延を使用すると、受信側がコールを受信する準備ができたときに信号を伝えることが可能になります。

即時スタート シグナリング：発信側が、オフフックになってから限られた期間（たとえば 200 ミリ秒）待機した後、受信側からの準備信号を待たずにダイヤル番号を送信する。

関連項目

- 「ループ スタート シグナリング」(P.39-4)
- 「グラウンド スタート シグナリング」(P.39-4)
- 「チャンネル連携信号 (CAS)」(P.39-5)

チャンネル連携信号 (CAS)

Channel Associated Signaling (CAS; チャンネル連携信号) は、オンフックとオフフックの信号を、オーディオ伝送と同じチャンネルでフレーム内のビットとして送信します。CAS はシグナリング用に音声チャンネルからビットを奪うため、損失ビット シグナリングとも呼ばれます。この信号には、監視やアドレッシングのほか、ビジー トーンやダイヤル トーンなどのトーンを含めることができます。

T1 CAS および E1 CAS デジタル トランク インターフェイスを使用して、Cisco Unified Communications Manager コールを CO、PBX、またはその他のアナログ デバイスに接続することができます。

T1 CAS

T1 CAS トランク インターフェイスは、インバンド E&M シグナリングを使用して、リンク上で最大 24 接続を搬送します。T1 リンクの両端では T1 CAS シグナリングを指定する必要があります。Cisco Unified Communications Manager では、一部の MGCP および H.323 音声ゲートウェイとネットワーク モジュールに対してポートを設定するときに、T1 CAS シグナリング オプションを使用できます。サポートされるゲートウェイの詳細については、「音声ゲートウェイ モデルの要約」(P.38-12) を参照してください。

E1 CAS

H.323 モードの Cisco ゲートウェイには、リンク上で最大 32 接続を搬送する E1 CAS トランク インターフェイスをサポートできるものがあります。E1 CAS シグナリング インターフェイスの設定は、Cisco Unified Communications Manager の管理ではなくゲートウェイ上で行う必要があります。E1 リンクの両端では E1 CAS シグナリングを指定する必要があります。E1 CAS をサポートする H.323 ゲートウェイのリストについては、「音声ゲートウェイ モデルの要約」(P.38-12) を参照してください。設定については、該当するゲートウェイのマニュアルを参照してください。

関連項目

- 「ループ スタート シグナリング」(P.39-4)
- 「グラウンド スタート シグナリング」(P.39-4)
- 「E&M シグナリング」(P.39-5)

デジタル テレフォニー プロトコル

デジタル テレフォニー プロトコルは、信号だけを搬送する専用チャネルの **common channel signaling** (CCS; 共通チャネル信号) を使用します。T1 リンクでは、1 つのチャネルが信号を搬送し、その他のチャネルが音声またはデータを搬送します。最新世代の CCS は **Signaling System 7 (SS7)** として知られ、監視やアドレッシングのほか、**automatic number identification (ANI)**; 自動番号識別) などの各種サービスを提供します。

Integrated Services Digital Network (ISDN); サービス総合デジタルネットワーク) は、プライベートまたは公衆のネットワーク サービスへのユーザ アクセスに関する一組の国際標準です。ISDN はユーザに、回線ベースとパケットベースの両方の通信を提供します。

Cisco Unified Communications Manager は、次の ISDN プロトコルをサポートできます。

- 「基本速度インターフェイス (BRI)」(P.39-6)
- 「T1 1 次群速度インターフェイス (T1 PRI)」(P.39-7)
- 「E1 1 次群速度インターフェイス (E1 PRI)」(P.39-7)
- 「Q.Signaling (QSIG)」(P.39-7)

基本速度インターフェイス (BRI)

小規模オフィスと家庭の通信リンクに使用される **Basic Rate Interface (BRI)**; 基本速度インターフェイス) は、音声とデータ用に 2 つの B チャネルと、シグナリング用に 1 つの D チャネルを提供します。

関連項目

- 「T1 1 次群速度インターフェイス (T1 PRI)」(P.39-7)
- 「E1 1 次群速度インターフェイス (E1 PRI)」(P.39-7)
- 「Q.Signaling (QSIG)」(P.39-7)

T1 1 次群速度インターフェイス (T1 PRI)

北米と日本の企業通信リンクでは、T1 Primary Rate Interface (PRI; 1 次群速度インターフェイス) が使用されています。T1 PRI は、音声とデータ用に 23 個の B チャンネルと、共通チャンネル信号用に 1 つの D チャンネルを提供します。T1 PRI が使用する通信速度は 1.544 Mb/s です。

関連項目

- 「基本速度インターフェイス (BRI)」 (P.39-6)
- 「E1 1 次群速度インターフェイス (E1 PRI)」 (P.39-7)
- 「Q.Signaling (QSIG)」 (P.39-7)

E1 1 次群速度インターフェイス (E1 PRI)

欧州の企業通信では、E1 Primary Rate Interface (PRI; 1 次群速度インターフェイス) が使用されています。E1 PRI は、音声とデータ用に 30 個の B チャンネル、共通信号用に 1 つの D チャンネル、および 1 つのフレーミング チャンネルを提供します。E1 PRI が使用する速度は 2.048 Mb/s です。

関連項目

- 「基本速度インターフェイス (BRI)」 (P.39-6)
- 「T1 1 次群速度インターフェイス (T1 PRI)」 (P.39-7)
- 「Q.Signaling (QSIG)」 (P.39-7)

Q.Signaling (QSIG)

企業ではさまざまなベンダーからの既存の通信機器を保持しているため、Q signaling (QSIG) プロトコル システムを使用すると、さまざまな通信機器間で相互運用を行い、機能を透過的に使用することができます。

QSIG プロトコルは、Private Integrated Services Network (PISN) のサービスおよびシグナリング プロトコルを定義する一連の国際標準です。これらの標準は、Integrated Services Digital Network (ISDN; サービス総合デジタルネットワーク) の概念を使用しており、ISO/IEC によって定義された International Standards for Open Systems Interconnection のフレームワークに準拠しています。QSIG プロトコルは、ISDN D チャンネル音声シグナリングの変種として機能します。ISDN Q.921 および Q.931 標準は、PBX 相互接続の世界標準を規定する QSIG プロトコルの基盤となります。

QSIG プロトコルを使用すると、Cisco 音声スイッチング サービスが、QSIG プロトコルを使用して通信する PBX および主要システムに接続できるようになります。QSIG 基本コール設定では、Cisco デバイスは、WAN 全体で、Private Integrated Services Network Exchange (PINX) デバイスからの着信音声コールを、ピアの Cisco デバイスにルーティングできます。このピアの Cisco デバイスは、シグナリングおよび音声パケットを別の PINX デバイスに転送できます。PINX デバイスになるのは、QSIG プロトコルをサポートする PBX、主要システム、または Cisco Unified Communications Manager サーバです。

基本 QSIG コールでは、PINX のユーザはリモート PINX のユーザにコールを発信できます。着信側は、コールの呼び出し音が鳴ると、発信側の名前または番号を受信します。発信側は、リモート PINX のユーザの電話機で呼び出し音が鳴ると、着信側の名前と番号を受信します。PBX ユーザとして使用可能な機能はすべてネットワーク全体で透過的に動作します。QSIG プロトコルは、PISN 用に定義されている補助的な追加のネットワーク機能を提供します。ただし、対応する QSIG 機能セットがコールの両端でサポートされていることが条件となります。

補助機能をネットワーク ユーザに対して使用可能にするには、ネットワーク内のすべての PBX が同一の機能セットをサポートしていることを確認します。

シスコでは、次の PBX ベンダーを対象に、Cisco Unified Communications Manager QSIG 機能の動作確認を行いました。T1 または E1 を使用する Lucent/Avaya Definity G3R、Avaya MultiVantage および Communication Manager、T1 または E1 を使用する Alcatel 4400、E1 を使用する Ericsson MD110、E1 または T1 を使用する Nortel Meridian、T1 を使用する Siemens Hicom 300 E CS、E1 を使用する Siemens Hicom 300 E、および Siemens HiPath 4000 です。

Cisco Unified Communications Manager は、次の QSIG 機能をサポートしています。

- 「Annex M.1 (QSIG のメッセージ トンネリング)」 (P.39-8)



ヒント Annex M.1 は、クラスタ間トランクを使用する Cisco Unified Communications Manager クラスタだけをサポートしています。Cisco Unified Communications Manager は、PBX で Annex M.1 をサポートしません。

- 「SIP トランクを介した QSIG トンネリング」 (P.39-9)
- 「QSIG の基本コール」 (P.39-10)
- 「Call Completion」 (P.39-11)
- 「自動転送」 (P.39-11)
- 「コール転送」 (P.39-12)
- 「旧バージョンの QSIG プロトコル (ECMA) との互換性」 (P.39-13)
- 「Facility Selection and Reservation」 (P.39-13)
- 「ID サービス」 (P.39-14)
- 「メッセージ受信のインジケータ (MWI) サービス」 (P.39-15)
- 「パス変換」 (P.39-16)

Annex M.1 (QSIG のメッセージ トンネリング)

Annex M.1 機能は、クラスタ間トランクと H.225 トランクを使用して、Cisco Unified Communications Manager 間で H.323 シグナリング メッセージの非 H.323 プロトコル情報を転送 (トンネリング) します。Annex M.1 は、QSIG コールと、QSIG コール独立シグナリング接続をサポートしています。Cisco Unified Communications Manager の管理でクラスタ間トランクを設定すると、QSIG トンネリングが、Call Completion、自動転送、コール転送、ID サービス、メッセージ受信のインジケータ、およびパス変換の各機能をサポートするようになります。



(注)

指定されたサードパーティのスイッチ機器の場合、Annex M.1 機能は、H.323 ゲートウェイを使用して、Cisco Unified Communications Manager 間で H.323 シグナリング メッセージの非 H.323 プロトコル情報を転送 (トンネリング) することもできます。Annex M.1 機能とサードパーティ ベンダーとの相互運用性については、『Cisco Unified Communications Manager Software Compatibility Matrix』を参照してください。



ヒント

ゲートキーパーを使用する場合は、ネットワーク内のすべてのゲートウェイに QSIG トンネリングを設定する必要があります。QSIG トンネリングをサポートしないゲートウェイがネットワーク内にあると、QSIG トンネリング用に設定されたクラスタ間トランクでコールが終了します。

Cisco Unified Communications Manager で QSIG トンネリングをサポートするには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスから [QSIG] オプションを選択し、[パス置換サポート (Path Replacement Support)] チェックボックスをオンにする必要があります。デフォルトでは、Cisco Unified Communications Manager の [トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスのオプションは [None] に設定されています。QSIG トンネル化プロトコル オプションを設定すると、[パス置換サポート (Path Replacement Support)] チェックボックスが自動的にオンになります。Annex M.1 または QSIG トンネル型のトランク上でパス変換が必要なければ、チェックボックスをオフにしてもかまいません。

[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] フィールドを [None] に設定すると、[パス置換サポート (Path Replacement Support)] チェックボックスは Cisco Unified Communications Manager で自動的にグレー表示されます。[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] フィールドを [QSIG] に設定した場合、[番号 IE 配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Inbound)]、[番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)]、または [IE 配信を表示 (Display IE Delivery)] オプションは設定できません。



ヒント

Cisco Unified Communications Manager は、Annex M.1 に対してプロトコル プロファイル 0x91 の ROSE 符号化をサポートしていません。

SIP トランクを介した QSIG トンネリング

Session Initiation Protocol (SIP; セッション開始プロトコル) を使用するコール処理環境では、SIP トランクを使用すると、SIP コール用の Cisco Unified Communications Manager にシグナリング インターフェイスを設定できます。SIP トランク (またはシグナリング インターフェイス) は、Cisco Unified Communications Manager クラスタを SIP プロキシ サーバに接続します。SIP シグナリング インターフェイスは、要求および応答を使用して、2 つ以上のエンドポイント間のコール (またはセッション) を確立、維持、および終了します。SIP と SIP トランクの設定の詳細については、「[SIP と Cisco Unified Communications Manager](#)」(P.40-2) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager では、SIP トランクを介した QSIG トンネリングをサポートしています。QSIG トンネリングは、折返し、Call Completion、自動転送、コール転送、ID サービス、メッセージ受信のインジケータ、およびパス変換の各機能をサポートします。



(注)

Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Intercompany Media Engine (IME) トランクでの折返しについては、接続維持モードのみをサポートしています。Cisco IME の詳細については、『*Cisco Intercompany Media Engine Installation and Configuration Guide*』を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager で SIP トランクを介した QSIG トンネリングをサポートするには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスから [QSIG] オプションを選択し、[パス置換サポート (Path Replacement Support)] チェックボックスをオンにする必要があります。デフォルトでは、Cisco Unified Communications Manager の [トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスのオプションは [None] に設定されています。QSIG トンネル化プロトコル オプションを設定すると、[パス置換サポート (Path Replacement Support)] チェックボックスが自動的にオンになります。Annex M.1 または QSIG トンネル型のトランク上でパス変換が必要なければ、チェックボックスをオフにしてもかまいません。



(注)

トランク サービス タイプとして Cisco Intercompany Media Engine を選択して SIP トランクを作成する場合、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] フィールドのデフォルトは [QSIG] になります。Cisco IME トランクで QSIG 機能を動作させるには、トンネル化プロトコルを QSIG にする必要があります。



ヒント

トランクをリセットすると、そのトランクを使用している進行中のコールがすべて終了されます。ゲートウェイを再起動すると、そのゲートウェイを使用している進行中のコールを保持しようとします。それ以外のデバイスでは、コールが完了するまで待機してから、再起動またはリセットされます。H.323 または SIP デバイスの再起動やリセットは、ハードウェアを物理的に再起動またはリセットするのではなく、Cisco Unified Communications Manager によってロードされた設定を初期化するだけです。

SIP トランクの場合、[リスタート (Restart)] と [リセット (Reset)] は同様に動作するので、どちらのアクションを実行してもすべてのアクティブ コールが接続解除されます。パケット キャプチャを使用可能または使用不可にする場合は、トランクに対して [リスタート (Restart)] も [リセット (Reset)] も実行する必要はありません。



(注)

SIP ゲートウェイから着信する Remote-Party-ID (RPID) ヘッダーが QSIG コンテンツに干渉し、これによって折返し機能で予期せぬ動作が発生する可能性があります。QSIG コンテンツへの干渉を防ぐには、SIP ゲートウェイで RPID ヘッダーを無効にします。

SIP ゲートウェイで RPID ヘッダーを無効にするには、次の例に示すように、SIP プロファイルをゲートウェイの voIP ダイアル ピアに適用します。

```
voice class sip-profiles 1000
request ANY sip-header Remote-Party_ID remove
response ANY sip-header Remote-Party-ID remove

dial-peer voice 124 voip
destination-pattern 3...
signaling forward unconditional
session protocol sipv2
session target ipv4:<ip address>
voice-class sip profiles 1000
```

QSIG の基本コール

QSIG 基本コールの設定を使用すると、プライベート ネットワークまたは virtual private network (VPN; バーチャル プライベート ネットワーク) 全体で、発信側 PINX (PBX または Cisco Unified Communications Manager) から別の PINX に音声接続を動的に確立できます。デジタル T1 または E1 Primary Rate Interface (PRI; 1 次群速度インターフェイス) トランクを使用して、QSIG プロトコルをサポートする必要があります。

Call Completion

次の Call Completion サービスは、Facility Selection and Reservation 機能を利用して、QSIG 対応のトランク上で Cisco Call Back 機能を提供します。

- Completion of Calls to Busy Subscribers (CCBS) : 発信側がビジー トーンを受信した場合、発信者は、通話中の宛先が電話を切って対応可能になったときにコールが完了するように要求できます。
- Completion of Calls on No Reply (CCNR) : 発信側に宛先から応答がない場合、発信側は、そのアクティビティが着信側の電話機で発生したときにコールが完了するように要求できます。

Cisco Unified Communications Manager および Call Completion サービスは、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内または QSIG トランク上にあるサポート対象の Cisco Unified IP Phone 7940、7960、および 7970 の [折返し] ソフトキーを使用します。同様に、QSIG Call Completion サービスをサポートしているデバイスは次のとおりです。

- Cisco Unified IP Phone 7905、7910、7912、7940、7960、7970
- Cisco VGC Phone、Cisco IP Communicator、および SCCP を実行するシスコ製電話機
- サポート対象のデバイスにコールを自動転送する CTI ルート ポイント

Cisco CallManager サービスで機能する Callback Calling Search Space サービス パラメータを使用すると、発信側 PINX が、終端側 PINX 上の CTI デバイスにコール設定要求をルーティングできるようになります。この機能は、Cisco Unified Communications Manager Assistant などの CTI アプリケーションをサポートしています。このサービス パラメータの詳細については、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの上隅に表示される ? をクリックしてください。

- QSIG トランク

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで Cisco Call Back 機能を設定する (『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「折返し」の章を参照) だけでなく、Cisco Technical Assistance Center (TAC) から指示を受けた場合は、Cisco Call Back サービス パラメータのデフォルト設定を更新する必要があります。Cisco Call Back サービス パラメータには、Connection Proposal Type、Connection Response Type、Callback Request Protection Timer、Callback Recall Timer、Callback Calling Search Space などがあります。これらのパラメータについては、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの上隅に表示される ? をクリックしてください。

Cisco Call Back サポートの追加情報 (たとえば、QSIG 対応のクラスタ内コールや Cisco Unified Communications Manager クラスタ内コールに対する動作) については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「折返し」を参照してください。

自動転送

Cisco Unified Communications Manager は、再ルーティングによる自動転送と、転送切り替えによる自動転送をサポートしています。再ルーティングによる自動転送が発生すると、発信側 PINX が、コールの受信者から要求を受信し、コールを別のユーザに自動転送します。システムにより、発信側と転送先ユーザ間に新しいコールが作成され、追加の CDR が生成されます。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、Cisco CallManager サービスは、Forward By Reroute Enabled パラメータと Forward By Reroute T1 Timer パラメータを使用して、再ルーティングによる自動転送を実行します。再ルーティングによる自動転送を使用する場合は、サービス パラメータを ? ヘルプで指定されている値に設定する必要があります。? ヘルプを表示するには、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの上隅にある ? をクリックします。サービス パラメータを設定しない場合は、自動的に、転送切り替えによる自動転送が発生します。

Cisco Unified Communications Manager は、発信側 PINX にコールの自動転送を要求することはできませんが、制限 QSIG メッセージを終端して、コールの転送先電話番号を検証することができます。再ルーティングによる自動転送は、非 QSIG トランクをサポートしていません。ネットワークで同一のダイヤルプランを使用しない場合は、転送切り替えによる自動転送とパス変換を使用して、発信側ユーザと終端側ユーザ間のパスを最適化します。

着信コールの受信者と転送先ユーザが同一の PINX に存在する場合、Cisco Unified Communications Manager は転送切り替えによる自動転送を使用します。再ルーティングによる自動転送が何らかの理由（たとえば、再ルーティングの時間切れ）で失敗した場合は、転送切り替えが発生します。

QSIG 転送補助サービスは、次のリストに示すように、よく知られた Cisco Unified Communications Manager 自動転送機能に似た自動転送機能を提供します。

- Call Forward All (CFA) 設定は、Call Forwarding Unconditional (SS-CFU) に対応します。
- Call Forward Busy (CFB) 設定は、Call Forwarding Busy (SS-CFB) に対応します。
- Call Forward No Answer (CFNA) 設定は、Call Forwarding No Reply (SS-CFNR) に対応します。
- Cisco Unified Communications Manager は Call Deflection (SS-CD) をサポートしていません。

ネットワーク内の他の PBX が機能を透過的に使用できるようにするため、システムは転送コールに関する情報を、コールの設定および接続中に QSIG トランク経由で渡します。電話機のディスプレイには、発信側の名前/番号、最初の着信側の名前/番号、および最後のリダイレクト側の名前/番号の情報を表示し、転送コールの宛先を示すことができます。電話機に表示される内容は、コール ID 制限の影響を受ける可能性があります。詳細については、「ID サービス」(P.39-14) を参照してください。

QSIG 補助サービスは、情報を提供して、転送コールからのボイス メッセージを最初の着信側のボイス メールボックスに残すことができます。ボイスメール設定が自動転送設定の設定値を上書きする場合がありますことに注意してください。

システムがコールをボイスメールボックスに自動転送する場合、Cisco Unified Communications Manager は再ルーティングによる自動転送を起動しません。Q.SIG トランク上でボイスメールサーバへの接続が発生する場合、再ルーティングによる自動転送を使用するには、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、該当する [接続先 (Destination)] フィールドにボイスメールパイロット番号を入力し、[ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。



ヒント

複数の PINX 間でコールが転送される場合、転送ループが生じる可能性があります。コールがループ状態に陥ることや、長い自動転送チェーンに入ることを回避するには、Cisco CallManager サービスの Forward Maximum Hop Count サービス パラメータを設定します。このパラメータを 15 より大きくすると、QSIG 設定が国際標準に適合しなくなります。

コール転送

Cisco Unified Communications Manager は、参加によるコール転送だけをサポートしています。

ユーザが別のユーザにコールを転送すると、QSIG ID サービスにより、転送先の電話機に表示される着信側の名前および番号が変更されます。電話機に表示される内容は、コール ID 制限の影響を受ける可能性があります。

コールが別の PINX の発信者に転送される場合、コール転送補助サービスは、パス変換機能と対話してトランク接続を最適化します。パス変換の詳細については、「パス変換」(P.39-16) を参照してください。

旧バージョンの QSIG プロトコル (ECMA) との互換性

Cisco Unified Communications Manager と旧バージョンの QSIG プロトコルとの互換性を確立するには、ASN.1 ROSE OID Encoding サービス パラメータと QSIG Variant サービス パラメータを設定します。



ヒント

これらのパラメータの詳細については、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの上隅に表示される ? をクリックしてください。

QSIG Variant パラメータに [ECMA] を選択する場合は、ASN.1 ROSE OID Encoding サービス パラメータに対して [Use Global Value (ECMA)] 設定を選択する必要があります。

QSIG Variant パラメータに [ISO] を選択する場合は、ASN.1 ROSE OID Encoding サービス パラメータに [Use Local Value] 設定を選択する必要があります。状況によっては、別の設定が必要になることがあります。

Cisco Unified Communications Manager は、Annex M.1 を使用してクラスタ間トランク上で QSIG をトンネリングすることをサポートしています。Annex M.1 を設定するには、次のいずれかを行います。

- ASN.1 ROSE OID Encoding を [Use Local Value] に、QSIG Variant を [ISO (Protocol Profile 0x9F)] に設定します。
- ASN.1 ROSE OID Encoding を [Use Global Value (ECMA)] に、QSIG Variant を [ECMA] に設定します。



(注)

また、ASN.1 ROSE OID Encoding パラメータと QSIG Variant パラメータを、個々のゲートウェイまたはトランクに対して設定することもできます。『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「[トランクの設定](#)」と「[ゲートウェイの設定](#)」の章を参照してください。

Facility Selection and Reservation

Facility Selection and Reservation 機能を使用すると、混合ルートリストを使用してコールを発信することができます。混合ルートリストには、さまざまなプロトコルを使用するルートグループが含まれています。この機能は、次のタイプのファシリティを含む混合ルートリストをサポートしています。

- QSIG プロトコルを使用する E1 または T1 PRI トランク
- QSIG 以外のプロトコルを使用する E1 または T1 PRI トランク
- T1-CAS ゲートウェイ
- FXO ポート
- クラスタ間トランク



ヒント

H.323 ゲートウェイに関するルートグループは、QSIG ルートグループを含むルートリストに追加できません。

ルートリストを設定する場合は、最初に QSIG ルートグループを設定し、次に、PSTN への代替接続として機能する非 QSIG ルートグループを設定します。プライベートネットワークの QSIG ファシリティだけでなく、QSIG コールに関する追加のルートグループを含めたことを確認してください。コールに使用できる QSIG トランクがない場合、コールには PSTN 上の代替ルートが必要になります。

コールに QSIG ファシリティが必要となる場合、Cisco Unified Communications Manager はルートグループを検索し、使用可能な最初の QSIG ファシリティを予約します。QSIG ファシリティを使用できない場合、Cisco Unified Communications Manager は、非 QSIG ファシリティを使用して PSTN にフェールオーバーします。

コールに QSIG ファシリティが必要ない場合、Cisco Unified Communications Manager はルートグループを検索し、使用可能な最初のファシリティを見つけます。

パス変換、メッセージ受信のインジケータ、および Call Completion 補助サービスでは、QSIG シグナリング適合要件を満たす QSIG ファシリティが必要です。上記のサービスのいずれかに使用可能な QSIG ファシリティがない場合、コールは QSIG シグナリング適合要件を満たさないため、機能は失敗します。

ID サービス

コールの呼び出し音が鳴り、コールが PINX に接続された場合、ID サービスを使用すると、発信者の名前/ID を終端側 PINX の電話機に表示し、同様に接続先の名前/ID を発信側 PINX の電話機に表示することができます。QSIG ID 制限を使用すると、Cisco Unified Communications Manager と接続先 PINX 間でこの情報の表示を制御できるようになります。

サポートされている補助サービスはコールごとに適用され、コール ID 情報の表示設定はコールの両端で設定されます。Cisco Unified Communications Manager には、電話機のディスプレイに表示される次の発信者 ID 番号 (CLID) と発信者名 (CNAM) の情報を制御する設定値が用意されています。

- Calling Line Identification Presentation/Restriction : 発信側番号を表示する (CLIP)、または発信側番号の表示を制限する (CLIR)。
- Calling Name Identification Presentation/Restriction : 発信側の名前を表示する (CNIP)、または発信側の名前の表示を制限する (CNIR)。
- Connected Line Identification Presentation/Restriction : 接続先回線の番号を表示する (COLP)、または接続先回線の表示を制限する (COLR)。
- Connected Name Identification Presentation/Restriction : 着信側の名前を表示する (CONP)、または着信側の表示を制限する (CONR)。

発信コール設定の設定値は終端 PINX に送信されます。終端 PINX では、設定値が上書きされる場合があります。接続先回線および名前/ID の設定は、コールの終端側で設定されます。設定値の受信後、発信側 PINX は設定を上書きする場合があります。



ヒント

名前を制限した場合、ディスプレイには「非通知 (Private)」と表示されます。発信回線番号を制限した場合、ディスプレイはブランクのままになります。

すべてのコールについて情報の表示を許可または制限するには、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウのフィールドを設定します。または、コールごとに表示情報を制御するには、[ルート パターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウと [トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウのフィールドを使用します。ゲートウェイの表示設定は、ルート パターンの設定を上書きします。トランスレーション パターンの表示設定は、ルート パターンの表示設定を上書きします。

Cisco Unified Communications Manager は、「Alerting on ring」だけをサポートしています。そのため、QSIG 呼び出し表示を設定すると、電話機で呼び出し音が鳴っているときにコール名情報を送受信できます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、[呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドに共有および非共有の電話番号を設定します。共有電話番号の 2 つの電話機で呼び出し音が鳴ると、[呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドに入力した名前が終端側 PINX の着信側の電話機に表示されます。ただし、表示される情報は、トランスレーション パターン制限の影響を受ける場合があります。発信側 PINX の発信者の電話機に表示される情報は、ルート パターン制限の影響を受ける場合があります。



ヒント

[呼び出し表示 (Alerting Name)] の ID 制限を設定するには、接続名設定パラメータを設定します。

[呼び出し表示 (Alerting Name)] を設定しない場合、呼び出し音が鳴ると、発信側の電話機には電話番号だけが表示されます。着信側について設定する表示名を設定した場合、コールが接続されると、発信側の電話機には表示名が表示されます。表示名または [呼び出し表示 (Alerting Name)] を入力しない場合、コール中に発信側の電話機に名前は表示されません。[呼び出し表示 (Alerting Name)] を次のデバイス タイプで使用することはできません。

- PRI トランク
- MGCP ゲートウェイの FXS/FXO ポート
- MGCP T1-CAS ゲートウェイ

Cisco Unified Communications Manager の管理の [UTF-8 の名前を QSIG APDU で送信 (Transmit UTF-8 Names in QSIG APDU)] は、デバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。

送信側デバイスでは、このチェックボックスをオンにすると、デバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信し、UTF-8 形式で符号化します。ユーザ ロケール設定が一致しないと、デバイスは ASCII を送信し、UTF-8 形式で符号化します。

設定パラメータが設定されておらず、デバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信し (名前が 8 ビット形式を使用している場合)、ISO8859-1 形式で符号化します。

メッセージ受信のインジケータ (MWI) サービス

QSIG ネットワークの PINX に、別の PINX のユーザにサービスを提供するボイス メッセージ システムが接続されている場合、メッセージ センター PINX は別の PINX に次のメッセージ受信のインジケータ (MWI) 信号を送信できます。

- MWI Activate : サービス対象ユーザの電話機へのメッセージをボイス メッセージ システムが受信すると、別の PINX に信号を送信してそのユーザの電話機上の MWI を有効にする。
- MWI De-activate : 関連するボイス メッセージ システム内のメッセージをユーザが受信すると、信号を送信して MWI を無効にする。



(注)

Cisco Unified Communications Manager では、MWI の問い合わせサービスはサポートされていません。

メッセージ センター以外の PINX は、MWI 信号を受信し、次の作業を実行することができます。

- MWI Activate : 別の PINX から信号を受信し、サービス対象ユーザの電話機の MWI を有効にする。
- MWI De-activate : 信号を受信し、サービス対象ユーザの電話機の MWI を無効にする。

ボイス メッセージ システムが QSIG 接続または Cisco Messaging Interface (CMI) を使用して Cisco Unified Communications Manager に接続されている場合、メッセージ受信のインジケータは QSIG ディレクティブに基づいて設定されます。

コールが別の番号に自動転送された後、ボイス メッセージ システムに転送される場合、QSIG 補助サービスは、情報を提供して、ボイス メッセージを最初の着信側のボイス メールボックスに残すことができます。

メッセージ受信のインジケータ サービスは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定されたメッセージ受信用の既存のダイヤル番号を使用するため、追加設定の必要はありません。

パス変換

QSIG ネットワークにおいて、コールが 3 番目の PINX の電話機にコール転送または自動転送された場合は、そのコールに対して、複数の PINX を経由する複数の接続が存在する可能性があります。パス変換機能は、コールの接続後に、中継 PINX（複数可）への接続を削除し、終端 PINX への新しいコール接続を作成します。



(注)

Cisco Unified Communications Manager が提供する PINX メッセージは、「requesting」と「cooperating」だけです。QSIG が設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サードパーティ ベンダー PINX の「inviting」メッセージに応答します。ただし、Cisco Unified Communications Manager は「inviting」メッセージを発信しません。

Cisco Unified Communications Manager はパス保存をサポートしていません。

Cisco Unified Communications Manager が起動するパス変換の対象は、参加によって転送されるコールと、転送切り替えによって自動転送されるコールだけです。複数のトランクを伴うコール（たとえば、電話会議）は、パス変換を使用しません。ただし、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウンリストボックスで [QSIG] オプションを選択し、ゲートキーパーによって制御されるクラスタ間トランク、またはゲートキーパーによって制御されないクラスタ間トランクに対して [パス置換サポート (Path Replacement Support)] チェックボックスをオンにした場合は、クラスタ間トランク上や、コール転送または自動転送に使用される他の QSIG クラスタ間トランクまたは PRI トランク上でパス変換が発生します。

CTI アプリケーションとパス変換を併用すると、パス変換を使用するコールのログには、コールの発信ログとは異なる Global Caller ID が割り当てられます。コール転送または自動転送の後で、残る両端が同一の Cisco Unified Communications Manager を使用した場合は、2 つ（パーティごとに 1 つ）の Global Caller ID が存在します。システムはどちらかの Global Caller ID を削除するため、コールの両端は同一の Global Caller ID を持ちます。



ヒント

この項では、パス変換サービス パラメータの一部について説明します。サービス パラメータの完全なリストとパラメータの詳細については、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの上隅に表示される ? をクリックしてください。

QSIG プロトコルは内線番号または電話番号を渡しますが、変換または挿入された番号を渡さないため、同一のダイヤルプランを使用するネットワークでは、パス変換などの QSIG 機能を使用します。プライベートネットワークのダイヤルプランで、一意でない電話番号が使用される場合は、PINX ID を利用してコールを再ルーティングする必要があります。PINX ID は、ネットワーク内のすべての PINX に一意の電話番号です。PINX ID が設定されている場合、パス変換機能は、「ID サービス」(P.39-14) で説明している着信側または発信側の番号の代わりに、PINX ID を使用します。PINX ID を設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで次の作業を実行します。

- パス変換機能の PINX ID サービス パラメータ（複数可）を設定します（パス変換機能は Cisco CallManager サービスを使用します）。
- PINX ID だけを含むコール ピックアップ グループを作成します。



ヒント PINX ID コール ピックアップ グループは、PINX ID 専用にしてください。このコール ピックアップ グループに他の電話番号を追加しないでください。

Cisco Unified Communications Manager には Path Replacement Calling Search Space サービス パラメータが用意されています。これを使用すると、要求側 PINX に発信 SETUP メッセージを送信するために協調 PINX が使用するコーリング サーチ スペースを設定できます。Path Replacement Calling Search Space サービス パラメータに値を指定しない場合、要求側 PINX は、コールに関与しているエンドユーザのコーリング サーチ スペースを使用します。

パス変換の設定値は、Cisco CallManager サービスの [サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで設定します。パス変換サービス パラメータには、Path Replacement Enabled、Path Replacement on Tromboned Trunks、Start Path Replacement Minimum Delay Time、Start Path Replacement Maximum Delay Time、Path Replacement PINX ID、Path Replacement Timers、Path Replacement Calling Search Space などがあります。これらのパラメータの情報を取得するには、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウに表示される ? をクリックしてください。

パス変換のパフォーマンス カウンタを使用すると、パス変換の発生を追跡できます。パフォーマンス カウンタについては、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

パス変換機能では、コールごとに複数の CDR が生成されます。発信側 PINX の発信者に対する CDR や、パス変換が起動された PINX の着信側に対する CDR が生成されます。



(注)

Cisco IP SoftPhone ユーザが打診転送を実行してコールを別の PINX に移動する場合、パス変換機能は有効ですが、直接 (ブラインド) 転送を実行する場合、パス変換機能は無効です。Cisco IP SoftPhone の詳細については、アプリケーションのバージョンに対応した Cisco IP SoftPhone マニュアルを参照してください。

Cisco Unified Communications Manager との QSIG インターフェイス

Cisco Unified Communications Manager で QSIG 機能をサポートするには、QSIG を Cisco Unified Communications Manager に直接バックホールする必要があります。Cisco Unified Communications Manager を QSIG ネットワークに相互接続する場合、MGCP ゲートウェイと、PISN への T1 または E1 PRI 接続が使用されます。MGCP ゲートウェイはコール接続を確立します。PRI バックホール メカニズムを使用することで、ゲートウェイは QSIG メッセージを Cisco Unified Communications Manager に渡し、QSIG コールの設定と、コントロール機能への QSIG メッセージの送信を有効にします。

QSIG を使用するゲートウェイに H.323 経由で PBX を接続した場合、PBX 上の電話機と、Cisco Unified Communications Manager に接続された IP Phone との間のコールで使用できるのは、基本的な PRI 機能だけになります。Calling Line Identification (CLID) と Direct Inward Dialing (DID; ダイヤルイン方式) の番号は、QSIG プロトコルを終了するゲートウェイだけが提供し、Cisco Unified Communications Manager は提供しません。

関連項目

- 「基本速度インターフェイス (BRI)」(P.39-6)
- 「E1 1 次群速度インターフェイス (E1 PRI)」(P.39-7)
- 「T1 1 次群速度インターフェイス (T1 PRI)」(P.39-7)

参考情報

関連項目

- 「セッション開始プロトコルの概要」(P.40-1)
- 「ゲートウェイの設定」(P.66-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ゲートキーパーの設定」
- 「Cisco Unified Communications Manager 音声ゲートウェイの概要」(P.38-1)
- 「参考情報」(P.38-24)
- 「トランク設定チェックリスト」(P.41-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランクの設定」

参考資料

- 『Cisco Unified Communications Solution Reference Network Design (SRND)』
- 『Configuring Cisco Unified Communications Voice Gateways』